

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190503128		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 十番館(1階)		
所在地	札幌市南区川沿2条6丁目1-30		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町村受理日	令和5年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南区の静かな住宅街にあり、1635坪という広大な敷地に位置しております。敷地内には散策路や桜、自家農園があり桜の季節には散策路からゆっくりとお花見を楽しむことができます。お部屋はすべて南向きで、敷地内、さらに敷地に面している中ノ沢公園を眺めることができます。コロナ過ではありますが、ゆったりとお散歩等の外出をすることができ、気分転換を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ハートの家 十番館」は、札幌市内などで多くのグループホームや介護施設を運営する社会福祉法人が2021年11月に新たに開設した事業所である。広大な敷地には散策路や自家農園、桜の木もあり自然環境に恵まれている。共用空間は、リビングホールや廊下、ラウンジもあり広々とした開放感のある造りになっている。壁には、季節に応じた装飾や利用者の作品がさり気なく飾られており家庭的な温もりが感じられる。温度や湿度を適切に調整して、過ごしやすい生活環境を整えている。居室やトイレ、浴室にも多くの手すりが備え付けられており、利用者が可能な限り自立した生活が継続できるような環境になっている。ケアマネジメントの面では、センター方式シートを活用して思いや意向を把握するとともに、新たに「思い出の場所」や「なじみのお店」などを記載する「私マップ」を作成して、一人ひとりの利用者へ寄り添った支援につなげる取り組みも検討している。医療面では、事業所で通院支援を行いながら主治医と連携して適切な医療を受けられるように努めている。入浴後に好きな飲み物を提供するなど、入浴が楽しめるような工夫も行っている。感染症の流行により地域交流や外出ができない状況であるが、収束後は近隣住民と交流したり馴染みの場所への外出なども積極的に行いたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示している。 入社時のオリエンテーション時や会議の中で伝えるなどしている。	法人理念の「よい人間関係なくして よいケアはできない」を会議で確認することはあるが、地域密着型サービスについて考える機会は少ない。法人理念を基に事業所独自の理念を作成する意向で、現在職員に意見を求めている。	地域密着型サービスを意識した事業所独自の理念を作成し、職員間で定期的に確認しながら共有することを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍ということもあり、地域との関わりは少ない。地域の住民が除雪をご厚意で手伝っていたりなどの関係は築けている。	散歩で挨拶したり私道の除雪で近隣と協力関係を築いているが、感染症流行の中で開設したため地域との交流はほとんどない。管理者が電話で町内会長と定期的に情報交換している。感染症収束後は地域交流を増やしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敷地内での活動時や、事業所を訪問されたとわねられることがある。その際には施設の種類やサービスの内容をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍ということもあり、地域の住民や包括職員の訪問はなく、職員のみで行っている。その中で特に事故についての対策、その後の経過について考えるようにしている。	感染症流行のため開設時から書面会議を開催し、行事や事故報告、新型コロナウイルス感染症関連の報告を行っている。議事録は大家族と構成メンバーに送っているが、現在は質問や意見をもらうことはない。	事前にテーマを設定したり、役立つ資料を議事録に添付して意見や質問などを聞き取るなど、会議や議事録が更に充実するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1日に提出する入居状況調査票やメールのやり取りの中で情報を求められた際には、お伝えしている。	管理者は、保護課の職員と利用者の情報交換をしたり保健福祉課とメールなどでやり取りしている。事務的な手続きはほとんど法人の担当者が行っているが、管理者も何かあれば相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	約3か月に1回身体拘束委員会を開催している。入社職員にはオリエンテーション時に身体拘束についての説明を、また在職職員についても身体拘束に関する啓蒙活動、勉強会を行っている。	マニュアルと身体拘束ゼロへの手引きを整備し、「禁止の対象となる具体的な行為」を休憩室などに掲示している。3か月ごとに身体拘束委員会を開催して勉強会も行っているが、勉強会資料の整備が十分とはいえない。玄関はオートロックになっているが、柔軟に職員が対応して閉塞感を与えないようにしている。	勉強会の内容を分かりやすく記録し、資料も見やすく整備するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	入社職員についてはオリエンテーション時に虐待についての説明を行い、在職職員については定期的に勉強会を開催している。		

グループホーム ハートの家 十番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束委員会にて議題にも上がる。勉強会にて成年後見制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には、一つ一つ説明を行い、質問等を受けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際には、ご家族様等に意見の反映させることができるようにしている。	管理者は、面会時や電話で利用者の様子を伝えて家族の意見や要望を聞き取り、内容に応じて連絡ノートや業務日誌に記録している。今年の1月から写真入りの個別便りを作成し、家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や運営推進会議等の際や個別面談の際に意見を聞く機会を設けている。	管理者は、毎月のユニット会議やケアの中で職員の意見や提案を聞き取っている。職員の提案で食事形態や量などを記入した食事表を作成している。管理者は年数回、全職員と個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談、また半期に一度の人事評価制度を通して個人のやりがいや課題を見つけ、向上心を持って取り組んでもらえるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別面談を通して、本人の課題、やりがいを見つけている。また法人内の研修に参加したり、事業所内において勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部署においては研修時にオンラインではあるが交流がある。しかしその他の外部との交流にはコロナ禍ということもあり行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の課題の抽出や人柄等を面談などで把握するようにしている。入居直後については関わりを多く持てるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には事前にご家族、可能であれば本人に見学をしていただき、サービスについての説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前の電話や見学の際に、サービスについての説明をしている。その上で本人、ご家族の希望に添えるものであるかどうかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る範囲内において、家事に参加していただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に体調の変化等があれば随時連絡をして、その後の対策や経過について情報を旧友するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出、面会制限があり、本人の馴染みの場所や人に会う機会はほとんど出来ていない。	友人から手紙や電話が来る利用者もいる。職員と一緒に墓参りに出かけたり、通院時に景色やお店を見て懐かしむこともある。感染症収束後は、馴染みの場所にも積極的に出かけたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士で、壁飾りやレクリエーション、またお手伝い等をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去、ご逝去に伴いその後やるべきこと等がわからない際にはお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人の意向やご性格等の把握を行うとともに、入居後生活を通して本人より発せられる言動を元に意向、思いを把握している。	日々の会話や家族からの情報、生活歴などから思いや意向を把握してセンター方式シートを定期的に更新している。思い出の場所などを記載する「私マップ」の作成も検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人の生活歴やご性格等を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者毎に記録を作成しており、普段の様子や気づきがあれば記載するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新の際には、ケア会議を開き、ケアプランの内容について、また新たな課題が見つければ、それに合わせてサービスの内容を変えている。	担当職員を中心に実施した評価を基に、計画作成担当者と管理者が3か月ごとに介護計画を作成している。「総合記録シート」に、介護計画のサービス内容の番号を記入しながら日々の支援内容を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者毎の記録だけでなく、連絡ノート、夜勤の送りリートを確認しながら情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向に応じてサービスの内容の変更をしたりするなどして対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療資源に関する情報の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については定期的に往診、受診している。その際には本人が希望を伝えられるように、また代わりに職員が伝えられるようにしている。	協力医療機関の往診が月2回行われているが、かかりつけ医を継続している利用者も数名いる。専門医やかかりつけ医の通院支援は事業所で行い、個別の「受診台帳」に病院ごとに受診状況を記入している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や受診時に日常生活の中での変化等を伝えることにより、処方薬の調整等を行うことができている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には入居時の生活状況を伝え、退院時の調整については連絡があった際に、受け入れることができる条件等を伝えている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りについての説明、また看取りをするにあたっての十番の方針を伝えている。	利用開始時に「重度化対応に関する指針」に沿って、医療行為が必要になった場合は対応が難しくなる旨を伝えている。体調変化に応じて医師、家族、事業所で方針を話し合い、希望に応じて看取りを行うことも説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社職員は緊急時の対応を理解する、実践できるように指導している。また研修計画の中に緊急時の対応を組んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害計画、BCP作成をしている。定期的に周知、勉強会を開催予定。	夜間の火災を想定した自主訓練を年2回実施している。地震マニュアルの整備と消防署や地域住民の協力を得た訓練は実施していない。救命講習は動画で研修しているが、感染症収束後は計画的に外部受講を進めたいと考えている。	地震マニュアルを整備し、地域との協力体制について話し合うよう期待したい。また、感染状況を見ながら消防署や地域住民の協力を得た避難訓練を実施するよう期待したい。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時、定期的には法人のコンプライアンスルールについて説明。入居者の尊厳を損なうことがないようにしている。	呼びかけを「さん」づけに統一している。内部研修で接遇や法人のコンプライアンスルールを学んでいる。申し送りを部屋番号で行うこともある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事などを誘う際や介助を行う際には必ず声を掛けている。お断りされるようであれば、再度時間を置いたり、理由を伺うなどしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	本人が自身でやりたいことをしていただいているが、自身で予定を立てることができない入居者については職員が本人のこれまでの生活習慣の傾向から予定を立てている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら洋服を選べない方に対しては複数の衣類から選んでもらうように働きかけている。自ら選べない方に対しては、それまでの生活習慣の傾向から職員が洋服を選んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(1階)	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭き、食後の食器洗い、拭き、片付け等の作業は職員と一緒にやっている。	食材会社によるバランスの取れた献立で食事を提供している。利用者も後片付けを手伝っている。誕生日にケーキを用意したり、夏祭りに利用者と焼きそばやたこ焼きを作る機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の召し上がる量や咀嚼力、嚥下力を考慮しながら、食事量や食事形態を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自ら、また声掛けにて口腔ケアをしていたりしている。自ら口腔ケアを行うことが難しい場合には介助にてやっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿間隔や排泄の意思を示す言動を把握し、トイレでの排泄ができるようにしている。	全員の排泄状況を記録している。車いすでも利用できる広いトイレが各ユニットに3か所ある。半分以上の利用者は自力でトイレに行け、その他の利用者は状態に応じて誘導や介助を行っている。声かけの際は羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取が進まない入居者にはゼリーを召し上がっていただくなどの対応をしている。またそれでも排便間隔が長くなるようであれば、かかりつけ医と連携を取り薬の調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を定めることによりそれに合わせて準備をされる入居者、また自身で決めることが難しい入居者には職員が間日時の間隔をみながら調整している。	日曜日以外の概ね午前の時間帯で、各利用者が週2回程度入浴している。入浴を拒む場合は、誘う職員を変えるなどの工夫をしている。また、希望があれば同性介助としている。風呂上りにノンアルコールビールを楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の眠りに入る時間帯は把握しており、その時間に合わせて声掛け、排泄のお誘い、またその日の眠気等の状況に応じてお誘いをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとにファイルを整備しており、その中に薬の状況を見ることができるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや片付け、テーブル拭き、消毒、洗濯物たたみ等の活動や壁飾り等の作成をするなどしている。		

グループホーム ハートの家 十番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、人出が多いお買い物等への外出は控えていただいている。施設敷地内や公園への散歩等は希望により実施している。	感染症の流行により買い物や行事での外出は行えていないが、広大な事業所の庭で花見や散歩、外気浴を楽しむことができている。敷地内の畑で野菜の収穫も楽しんでいる。感染症収束後は外出行事を計画的に行いたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については施設にてお預かりしている。本人がお買物を希望される際には内容を伺い職員が代わりに購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した際には電話を取り次いでいる。またご家族様の要望によりかけてほしい時間帯がある際にはそのようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温は一定になるようにしている。日中の照明については日差しが入る際には控えめにして自然を感じていただけるようにしている。壁飾りは季節を感じていただけるような飾りにしている。	共用空間は、リビングホール、廊下、ラウンジなどが広く開放的である。ラウンジにソファを置き、広い庭や隣の公園を眺めることができる。壁に手作りの季節に応じた装飾を飾り、観葉植物も置いている。エアコンや加湿器で温度、湿度を調整している。トイレや浴室は手すりやリフトなどの設備が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはテーブル、テレビ前にはソファがあり、入居者が自由に座れるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には基本的に使い慣れた家具や衣類等を持参していただいている。また居住する中でさらにご本人様が過ごしやすいように家具の配置換えなどを行っている。	居室は全室が南向きで明るい。クローゼットが備え付けられ、利用者がベッドやタンス、棚、テレビなどの家具を持ち込んでいる。家族の写真やカレンダー、時計なども好みに応じて飾られている。各居室にストーブがあり、暖かく過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには名札等を用意し、利用しやすいようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190503128		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 十番館		
所在地	札幌市南区川沿2条6丁目1-30		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町村受理日	令和5年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南区の静かな住宅街にあり、1635坪という広大な敷地に位置しております。敷地内には散策路や桜、自家農園があり桜の季節には散策路からゆっくりとお花見を楽しむことができます。お部屋はすべて南向きで、敷地内、さらに敷地に面している中ノ沢公園を眺めることができます。コロナ過ではありますが、ゆったりとお散歩等の外出をすることができ、気分転換を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示している。 入社時のオリエンテーション時や会議の中で伝えるなどしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍ということもあり、地域との関わりは少ない。地域の住民が除雪をご厚意で手伝っていただくなどの関係は築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敷地内での活動時や、事業所を訪問されたずねられることがある。その際には施設の種類やサービスの内容をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍ということもあり、地域の住民や包括職員の訪問はなく、職員のみで行っている。その中で特に事故についての対策、その後の経過について考えるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月1日に提出する入居状況調査票やメールのやり取りの中で情報を求められた際には、お伝えしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	約3か月に1回身体拘束委員会を開催している。入社職員にはオリエンテーション時に身体拘束についての説明を、また在職職員についても身体拘束に関する啓蒙活動、勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社職員についてはオリエンテーション時に虐待についての説明を行い、在職職員については定期的に勉強会を開催している。		

グループホーム ハートの家 十番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束委員会にて議題にも上がる。勉強会にて成年後見制度について理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には、一つ一つ説明を行い、質問等を受けている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際には、ご家族様等に意見の反映させることができるようにしている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や運営推進会議等の際や個別面談の際に意見を聞く機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談、また半期に一度の人事評価制度を通して個人のやりがいや課題を見つけ、向上心を持って取り組んでもらえるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別面談を通して、本人の課題、やりがいを見つけている。また法人内の研修に参加したり、事業所内において勉強会を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部署においては研修時にオンラインではあるが交流がある。しかしその他の外部との交流にはコロナ禍ということもあり行っていない。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の課題の抽出や人柄等を面談などで把握するようにしている。入居直後については関わりを多く持てるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には事前にご家族、可能であれば本人に見学をしていただき、サービスについての説明をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前の電話や見学の際に、サービスについての説明をしている。その上で本人、ご家族の希望に添えるものであるかどうかを検討している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る範囲内において、家事に参加していただいている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に体調の変化等があれば随時連絡をして、その後の対策や経過について情報を旧友するようにしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出、面会制限があり、本人の馴染みの場所や人に会う機会はほとんど出来ていない。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士で、壁飾りやレクリエーション、またお手伝い等をしていただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去、ご逝去に伴いその後やるべきこと等がわからない際にはお伝えしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人の意向やご性格等の把握を行うとともに、入居後生活を通して本人より発せられる言動を元に意向、思いを把握している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人の生活歴やご性格等を把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者毎に記録を作成しており、普段の様子や気づきがあれば記載するように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新の際には、ケア会議を開き、ケアプランの内容について、また新たな課題が見つければ、それに合わせてサービスの内容を変えている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者毎の記録だけでなく、連絡ノート、夜勤の送りリートを確認しながら情報の共有に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向に応じてサービスの内容の変更をしたりするなどして対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療資源に関する情報の把握に努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については定期的に往診、受診している。その際には本人が希望を伝えられるように、また代わりに職員が伝えられるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や受診時に日常生活の中での変化等を伝えることにより、処方薬の調整等を行うことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には入居時の生活状況を伝え、退院時の調整については連絡があった際に、受け入れることができる条件等を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りについての説明、また看取りをするにあたっての十番の方針を伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社職員は緊急時の対応を理解する、実践できるように指導している。また研修計画の中に緊急時の対応を組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害計画、BCP作成をしている。定期的に周知、勉強会を開催予定。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時、定期的には法人のコンプライアンスルールについて説明。入居者の尊厳を損なうことがないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事などを誘う際や介助を行う際には必ず声を掛けている。お断りされるようであれば、再度時間を置いたり、理由を伺うなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自身でやりたいことをしていただいているが、自身で予定を立てることができない入居者については職員が本人のこれまでの生活習慣の傾向から予定を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら洋服を選べない方に対しては複数の衣類から選んでもらうよう働きかけ、自ら選べない方に対しては、それまでの生活習慣の傾向から職員が洋服を選んでいく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭き、食後の食器洗い、拭き、片付け等の作業は職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の召し上がる量や咀嚼力、嚥下力を考慮しながら、食事量や食事形態を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自ら、また声掛けにて口腔ケアをさせていただいている。自ら口腔ケアを行うことが難しい場合には介助にてやっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿間隔や排泄の意思を示す言動を把握し、トイレでの排泄ができるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取が進まない入居者にはゼリーを召し上がっていただくなどの対応をしている。またそれでも排便間隔が長くなるようであれば、かかりつけ医と連携を取り薬の調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を定めることによりそれに合わせて準備をされる入居者、また自身で決めることが難しい入居者には職員が間日時の間隔をみながら調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の眠りに入る時間帯は把握しており、その時間に合わせて声掛け、排泄のお誘い、またその日の眠気等の状況に応じてお誘いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとにファイルを整備しており、その中に薬の状況を見ることができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや片付け、テーブル拭き、消毒、洗濯物たみ等の活動や壁飾り等の作成をするなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、人出が多いお買い物等への外出は控えていただいている。施設敷地内や公園への散歩等は希望により実施している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については施設にてお預かりしている。本人がお買い物を希望される際には内容を伺い職員が代わりに購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した際には電話を取り次いでいる。またご家族様の要望によりかけてほしい時間帯がある際にはそのようにしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温は一定になるようにしている。日中の照明については日差しが入る際には控えめに自然を感じていただけるようにしている。 壁飾りは季節を感じていただけるような飾りにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはテーブル、テレビ前にはソファがあり、入居者が自由に座れるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には基本的に使い慣れた家具や衣類等を持参していただいている。 また居住する中でさらにご本人様が過ごしやすいように家具の配置換えなどを行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには名札等を用意し、利用しやすいようにしている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ハートの家 十番館

作成日：令和 5年 2月 18日

市町村受理日：令和 5年 2月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスを意識した事業所独自の理念がない	事業所独自の理念を作成する	職員間で意見を募り地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作成する	3か月
2	4	運営推進会議の内容が定型化しており、興味を持てるものになっていない	事前に運営推進会議のテーマを設定、周知、また役に立つ資料等を配布することにより会議の有用性や興味を高める	運営推進会議の前にご家族様にテーマを伝える。また会議後には資料の配布を行う。	2か月
3	35	地震マニュアルが作成していない。コロナ過であることも影響しているが、地域住民、消防署等との避難訓練が行えていない	地震マニュアルの作成をする。住民等との災害時の協力体制の整備を行う	事業所の立地条件を考慮に入れ地震マニュアルを作成する。行政のコロナ感染症対策の行方をみながら地域住民との協力体制に向けた話し合いの設定を行う	3か月 ～6か月
4	6	委員会と勉強会の内容が同一ファイルに保存しており、見にくい	勉強会の内容を分かりやすく記録し、資料も見やすいようにする	委員会と勉強会のファイルを別々に作成する	1か月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。